AIと責任（つくる人・届ける人・使う人）

AIを使った製品で問題が起きないように、だれが何をするのだろう



例（架空）：店の中で荷物を運ぶAIロボットが、通路に置かれた箱を見落とし、客にぶつかりそうになった。

このとき、だれが、何に責任を持つのだろう。

使い方と限界の情報 →　　使い方と限界の情報 →

開発する人　AIをつくる

ふだんから

- いろいろな場面で試す（予想しない場面も）
- 見落としにくく、止まりやすくする
- できることと限界を伝える

問題が起きたら：原因を調べて、直す

提供する人　AIを組みこんだサービスを届ける

ふだんから

- 目的に合うAIを選んで組みこむ
- 使い方と限界を説明する
- 正しく使われているか確かめる

問題が起きたら：止める・知らせる・直す

使う人　AIを使う店など

ふだんから

- 説明された使い方を守る
- 通路を整えるなど、人が見守る
- おかしな動きを知らせる

問題が起きたら：止めて、提供する人に伝える

← 不具合やおかしな動きの情報

責任は、それぞれの役割にある

1人だけで負うのではない

どこに責任があるかは

原因・約束（契約）・法律などで判断される

両方の立場から考える

使う人と、つくる人の立場から技術を見る

※ 架空の例。3つの役割は、総務省・経済産業省「AI事業者ガイドライン」のAI開発者・AI提供者・AI利用者をもとにした。